

学習意欲をもたせる指導

— 倫理社会における教育相談的手法を生かした学習指導 —

石橋 政雄*

高校生の学校生活に対する意欲の乏しさが指摘されているが、私は、生徒の気持ちを聞いてみて、多くの生徒が、主体的に学習にとりくもうとする意欲をもっていることに気づいた。またP P C検査では、他人に自分が受け入れられていないと感じて、積極的な行動がとれないという傾向の強いことを知った。そこで私は、生徒の主体的な学習を生かし、発言をよく聞いてやることのできる授業を工夫してみた。

I はじめに

学習指導の形態にはきまりはない。私がとり組んだ教育相談的手法を生かした学習指導も、つねに最善な指導形態とは限らないと思うが、他面、私どもは教務室の片隅で生徒は勉強しないと嘆き、教室では、生徒に勉強せよと追いたてる。そこには、教師を主体とした授業の場がみられても、生徒を主体とした学習の場としては、不満なものが見られはしないだろうか。

高等学校への進学率の高まりは、生徒の多様化を必然化しており、一方、現代高校生の学校生活に対する意欲が乏しいとして、三無主義とか四無主義などと指摘され、嘆かれている今日、こうした現実の高校生に、いかに学習意欲をもりたてるよう手をかけてやることができるかということを、私たち教師は、まず考えなければならないと思う。そこで、私は、教育相談的手法を生かした学習指導法を実践にとり上げてみた。

II 対象学級

1 対象学級の実態(第2学年)

在籍生徒数は、45名(男18 女27)で卒業後の進路は、進学したい者が18名(男9, 女9)就職するつもりの者が21名(男7, 女14), まだわからない者が4名(男1, 女3)である。

2 生徒が欲している学習のしかた

どのような学習のしかたが、今の自分たちをひっぱっていってくれるかということで、生徒に設問したところ、次のような応答があった。

ア 問題をグループで話あってとかせるようにしてもらいたい。	26人(男10 女16)
イ 小テストを多くやってとかせるようにしてもらいたい。	16人(男 5 女11)
ウ こたえがまちがっていてもよく聞いてもらいたい。	8人(男 4 女 4)
エ 生徒に話をさせるようにしてもらいたい。	7人(男 6 女 1)
オ 個人的におしえてもらいたい。	6人(男 2 女 4)

* 県立黒埼高等学校

カ 質問の時間をふやしてもらいたい。	5人(男 3 女 2)
キ 補習をしてもらいたい。	5人(男 2 女 3)
ク 時々ノートをもてもらいたい。	4人(男 2 女 2)
ケ 自分で考えたことをノートにまとめさせるようにしてもらいたい。	3人(男 2 女 1)
コ ほめてもらいたい。	3人(男 2 女 1)
サ 落第者をだしてもらいたい。	3人(男 2 女 1)
シ 宿題を多く出してもらいたい。	3人(男 0 女 3)
ス どしどしかけてもらいたい。	2人(男 2 女 0)
セ どんどんすすんでもらいたい。	2人(男 1 女 1)
ソ ノートにまとめたものを発表させるようにしてもらいたい。	1人(男 1 女 0)
タ 時間中にみんながこたえなければならないようにしてもらいたい。	1人(男 1 女 0)
チ 隣りの人とノートを交換してこたえを確かめあうようにしてもらいたい。	1人(男 1 女 0)
ツ しかってもらいたい。	1人(男 0 女 1)

このようすからみると、生徒は、問題をグループで話しあってとかせるようにしてもらいたいとか、こたえがまちがっていてもよく聞いてもらいたい。生徒に話をさせるようにしてもらいたいといった傾向の学習のしかたを欲しているようである。私はこうした生徒の気持ちを生かした授業形態の工夫を考えてやることができたなら、学習にとり組む生徒の姿が生き生きとしてくると思えた。

3 教研式P P C検査による指導の観点

(表1) 教研式P P C—Ⅱ型学級整理表 (△……やや問題あり, X……問題あり)

調査項目		氏名	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n
対人関係	反抗する傾向	R	△	△	×	△	×	×	△	△	×	△						△	△		×		△	△								×	△	
不適応	圧迫されている感じ	O	△	△	×		△	×	△				△					△	×	△	△		△	×	△	△						△	△	
情動不安	欲求不満が強い	I		△	△		×	△		△	×							△	△		△	△		△	×	△					△	△		
安定性	孤独感をもつ傾向	A	△	×	△			×	△	△	△	×	×	△	△	×	×	△	×	△	△	△	△	△		△	×				×	×	×	
学習	学習意欲がない	S	△	×	×			×	△	×	×	×	△	×	△	×	×	×	×					△	△	△	△				△	△	×	
適応性	根性がない	N	△	×	△	×		△	×	×	×		△	×	×	×		△	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	△	×	×	△	
結果を信頼できるか		L			×	×		△				△							×	△		△		△		△	△	△						

	o	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	z
R	△			△		△	△	△	△	△	△	×	
O				△	△	△	△		△	△	△	△	△
I	×	△					△	×	△				
A		△	△	×	×		△						
S	△	△	△	△	△	×	×		△	×			
N	△	×	△	△	×	×	×	×	×	△	×		
L	△			×	△		△	×					

この検査結果から生徒の中に、他人に自分が受けいれられていないと感じて、積極的な行動がとれない傾向（孤独感をもつ傾向の項）や学業に意欲を欠くので、ほかのことで自分を満足させようとして問題行動を起こす傾向（学習意欲がない項）、忍耐力が弱く、ものごとにあきやすい傾向（根性がない項）にみられるが

この検査結果から生徒の中に、他人に自分が受けいれられていないと感じて、積極的な行動がとれない傾向(孤独感をもつ傾向の項)や学業に意欲を欠くので、ほかのことで自分を満足させようとして問題行動を起こす傾向(学習意欲がない項)、忍耐力が弱く、ものごとにあきやすい傾向(根性がない項)が示されるが、

私は、この生徒たちにまず、他人に自分が受けいれられていないと感じて、積極的な行動がとれないという傾向を取り除いてやる工夫を考えることだと感じた。

Ⅲ 倫理社会における実践

1 倫理社会年間学習内容

ア 現代人と人間 (ウ) 現代とは何か (イ) 現代社会と人間 (ウ) 社会集団と人間関係
(エ) 青年と人間形成

イ 人生の考え方と生きかた (ウ) 人間の自覚 (イ) 思想の発展 (ウ) 日本人の思想形成
ウ 現代の思想的状況と課題 (ウ) 現代の思想的状況 (イ) 現代の思想的課題

2 実践事例の学習内容と学習のすすめ方

学習場面

ア 現代と人間

(エ) 青年と人間形成

① 現代の青年期 ② 人間形成の課題 ③ 生きがいの追求

上記の内容の、③ 生きがいの追求を実践事例の学習場面にとりあげてみた。

学習のねらい

- ① 生きかたのいろいろなタイプを学び、まず「どのように生きるか」についての人生への態度をかためる手がかりをあたえる。
- ② 「生きかた」の類型として、モリスの13の型をとりあげ、人間としての努力や自己抑制に高い価値をおく傾向は、どの時代においても変わらないことを理解させる。
- ③ ほんとうの「生きがい」とは、現代では個人自らが見いだす時代であることを自覚させ、次の大単元「人生の考えかたと生きかた」についての関心をもたせる。

学習のすすめ方

この時間では、生徒の気持ち(前掲の対象学級の傾向参照)を生かし、孤独感(前掲教研式P P C検査による指導の観点参照)をとり除いてやるための学習のすすめ方を、次のように工夫してみた。

- ① 生徒自身の生きかたについて自発的に発表させる。
- ② 教科書を手がかりに、発表した生徒の生きかたはどんなタイプにあたるかをグループで話あわせる。
- ③ ほんとうの生きがいについて、ノートにまとめさせて提出させる。(次の大単元導入の手がかりにもする)

3 教育相談的手法を生かした学習の場面

(前の時間に自分の生きかたについて考えておくように指導した)

T この時間は生きかたについて話しあうことになっていたね。(「生きかた」と板書)

T ええ……と、それではあいむかいになってもらおうか。(むきをかえて生徒同士がむかいあいになる)

T それでは、誰からでもよいから自分の生きかたについて話してもらおう。沈黙6分20秒
(Eの手があがった)

T はい、E君。

E 小さいころは、ええと……生きかたについて考えたことはなかったけど、だんだん大人になってくると、いろいろなことを考えてしまう。…
なんのために生きているんだろうと自分に、い

い聞かせることが多くなりました。(T うん)
……生きかたって心のささえとか心のほりなんかをいうとすれば、…僕の場合……(T うん)
仲間とバイクのことや将来のことなど話してるときだと思っています。

T うんうん、E君は、友だちとバイクのことや将来のことなどについて話しているとき、生き生きとしたものを感じるんだね。

(dの手があがった)

T はい、dさん

d 私は……学生なのだから勉強が中心でなければいけないのだけれど……(T うん)……私はあまり勉強は好きでない……(T うん)部活動をしてみてもすっきりした充実感はないし……(T うん)……でも私は将来なりたい職

業があります。その仕事にはりあいをもち、
生きたいと思えます。

T うん……dさんは将来なりたい職業があるんだね。

d ハイ。 — 1分35秒沈黙 —

T E君とdさんが話してくれたが、他の人もみんなに聞かせてくれないかなあ……。 (sの手が上がる)

T はい、sさん。

s 私は毎日楽しくでき……心がうちとけあう友だちを求めて、自分自身の思う考えを聞いてもらい、まわりの人々を気にせず……ええと、好かれるようにして(笑う)いきたいと思えます。……好かれるということは、行動で無理に表わすのではなく、自然に素直さを表現し、…… — 10秒沈黙 — (T うんうん) テレビとかで、あなたの生きがいというところ、そうですね働くことや子どもなどというけど、なぜそうすぐいえるのかと思います。

T sさんの言いたいことって、どういうことかなあ……。 — 5秒沈黙 — 人の忠告を素直に聞いて、自分を反省しながら自然な姿の中で、少しずつ自分をなおして、自分に満足感をもって……それに人との接触を大切にしていきたいということかな。(sうなずく。sからは以前にこの話を聞いたことがある)(xの手が上がる)

T はい、xさん。

x ええと、私は将来、幼稚園の先生になりたいと思っています。幼児教育の短大か大学にはいって……さ、(みんな笑う)きのう関屋駅の前で、女の子が1人三輪車に乗って遊んでいたんです。そして、私とあと2人友だちが通ったら、お姉ちゃんって子どもの方から声をかけられたんです。…… — 15秒沈黙 —

T 1人で遊んでいて友だちがほしかったんかな。

x ハイそうだと思います。……そしていろいろ遊んでやったんです。

T うーん……xさんは幼稚園の先生になって、好きな子どもと遊ぶことに生きがいを求めているのかな。

x ハイ……。 — 10秒沈黙 — でも今の生きがいは幼稚園の先生になることでしょ。

T そうか、幼稚園の先生になるためにいっしょけんめい勉強しようということなんだな。

x さも勉強しているようで恥ずかしいなあ……。 (みんな笑う)

T さあ、今度は男子の方からはなしてもらおうか。 35秒沈黙

T 誰か聞かせてくれないかなあ……。

(Mの手が遠慮がちにあがった)

T はい それではM君の話聞かせてもらおうかな。

M 人間は生きているのだから、だれもが生きがたというものをひとつくらい考えていると思います。(T うんうん) 社会人なら働くことが私の生きがいですという人もいるだろうし…… (T うん) 今の僕たちのような学生は、みんな自由だということ生きがいにしているのが多いのではないかと思います。(T うん) 僕もやはりその中のひとりだと思います。

— 10秒沈黙 —

T M君は、やりたいことを学生時代にやってみたいということかな。

M ハイ。人間はだれもが心の中で自由になりたいと考えているのではないのでしょうか。……僕は自分の欲求や願望を満足させることで精いっぱいです。

T M君は、自分の欲求や願望を満足させたいということかな。 — 25秒沈黙 —

T それではこのへんで、話をしてくれた5人の生きかたについて、みんなで考えてみよう。

(教科書「生きがいの追求」の力所を開かせ、

① 5人の生きかたが教科書にでてくるいろいろな生きかたのうちの、どのタイプに該当するか話あわせ、②「生きがいとはなんだろうか」について、ノートにまとめさせて提出させる)

ノートに自分の考えをまとめた学習の例

「自分の生きかた」

いっしょけんめいに勉強して大学へは行って、将来、ある職業についてみたいなんていう夢があって、それがまた、今までの自分の生きがいでもあった。しかし、今はそんなものは何もない。なぜならば、自分の頭の程度を知り、自分に失望して、何もかもいやになったから。(自分のような者を身のほど知らずというのでしょうか) まだ大学へはいる夢を捨てたわけではないが、半分あきらめがあってこの夢もうすれてきた。

今、自分は迷っている。このままこの夢をつらぬき通すか、それともこの夢を捨ててほかに生きがいを求めるべきか……。いっそ、この夢を捨ててしまえば気が楽になるだろうと考えるが、まだこの夢に未練があってこれを捨てることができない。(未練がましいかなあー) なぜ未練があるのか。自分の虚栄心と、将来ある職業につきたいためだと思う。

＜勉強して大学へは行って、ある職業についてみ

たいという夢を捨てることができないのですね。

「こんな生きかたをめざして」

私の理想は、いつも何か目標をもって、何か世の中のためになる仕事をやり、その日を精いっぱい生きて……といつも思っているが……。あくまでもこれは理想で……みじめです。

しかし、これだけは言える。人を殺したり、人のものを盗んだり、人に迷惑をかけたりして

いく生きかただけは、ぜったいしたくない。けど……えらくなって……人を動かすような生きかたも、あまり好きじゃない。とにかく……人間らしく生きたい。毎日働いて汗をかく……私はそれでいい……と思う。私は、こんな人間になれるために勉強してみたいと思う。

<人間らしく生きたい、そのために勉強してみたいと思っているんですね。>

IV 実践の結果

(1) 学習の場面を、数人の自発的に発言した問題を主軸にして、グループで話あわせた後、各グループからも自発的な発言を求めた。そのあと、ノートに自分の考えをまとめてみるという3つの方法の中で、生徒の発言を大切に学習形態をとった。

(2) 実践事例の学習における生徒の感想は、次のとおりであった。

(表2) 学習に対する生徒の感想

① 自分の意見が発表できたか

発言の場	生徒の感じ	+2	+1	0	-1	-2
自発的な発言の場		5	1	2	4	32
グループで話あった場		9	8	5	9	13
ノートに自分の考えをまとめた場		13	11	7	8	5

③ 疑問点が納得できたか

発言の場	生徒の感じ	+2	+1	0	-1	-2
自発的な発言の場		3	2	3	4	32
グループで話あった場		2	2	6	9	25
ノートに自分の考えをまとめた場		9	7	9	7	12

② 自分と他人の意見の相違がわかったか

発言の場	生徒の感じ	+2	+1	0	-1	-2
自発的な発言の場		5	3	3	7	26
グループで話あった場		12	10	9	7	6
ノートに自分の考えをまとめた場		4	3	5	5	27

④ 楽しく学習ができたか

発言の場	生徒の感じ	+2	+1	0	-1	-2
自発的な発言の場		7	4	6	9	18
グループで話あった場		13	11	7	4	9
ノートに自分の考えをまとめた場		4	6	8	10	6

注 +2→はい。+1→はっきり「はい」とはいえない。

-2→いいえ。-1→はっきり「いいえ」とはいえない。0→どちらでもない。

上記の①～④の表から、ア 自発的な発言の場では、時間の制約もあって、発言する生徒も限られるが、グループで話あう場とノートに自分の考えをまとめる場で、自発的な発言の場での消極さをかなり補うことができたと思われる。(①自分の意見が発表できたかの項参照) イ グループで話あった場では、自分と他人の意見の相違がわかったと感じている生徒(②自分と他人の意見の相違がわかったかの項参照)や、楽しく学習できた(④楽しく学習ができたかの項参照)という生徒が多いが、これは、グループで話あった学習が、生徒にとって、生き生きとした場であったと感じられたのだろう。

V おわりに

(1) 自発的な発言を育てる

高等学校の生徒の場合、積極的な発言を期待することは困難で、最初は、ア 生徒の自発的な発言を待つ中で、積極的な学習態度のあり方を考えさせたり、全員必ず発言する時間を設定する。イ 生徒が気楽にとり組める学習内容の設定や雰囲気をつくる。ウ 予習でノートにまとめたものを発表しあう。エ グループで話あったことを発表させる。などを試みた。

(2) よく聞いてやる

よく聞いてやることのできる場としては、ア 授業時間における自発的な発言の場やグループで話あった場での発言。イ ノートのまとめをみてやる際、記述の中から適切な一筋をとりだし、聞いてやったという形で末尾に書き添えてやる。ウ 質問の場。などに求めた。

(3) 授業の進度

授業の進度の遅れとあせりと学習内容の不十分さへの心配がつきまとうため、この教育相談的手法を生かした学習指導形態を全面的にとりいれる自信はなく、導入段階やまとめ段階で、教育相談的手法を生かしてみたが、そこには、講義式の授業で味わうことのできない生き生きとした教室の雰囲気を感じることができた。